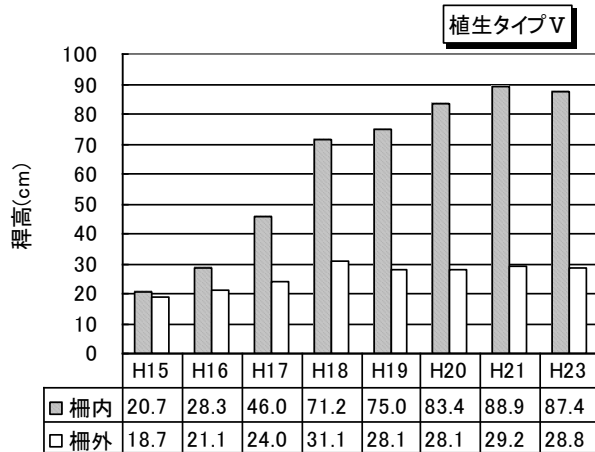
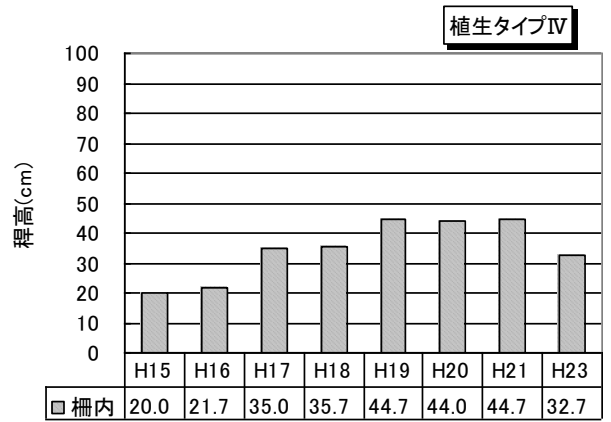
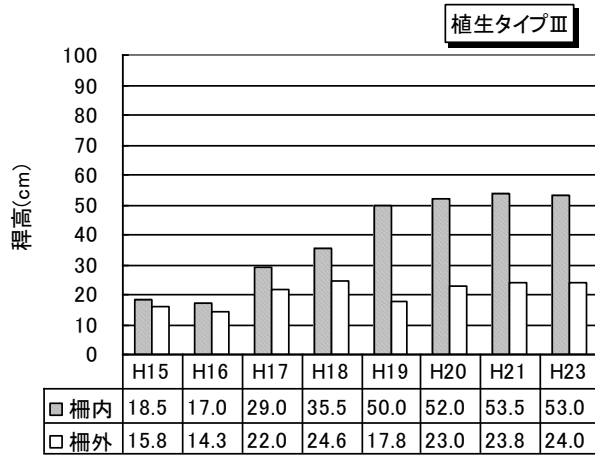
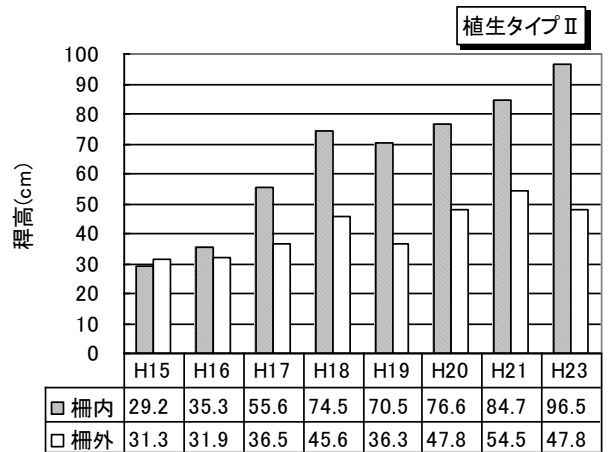
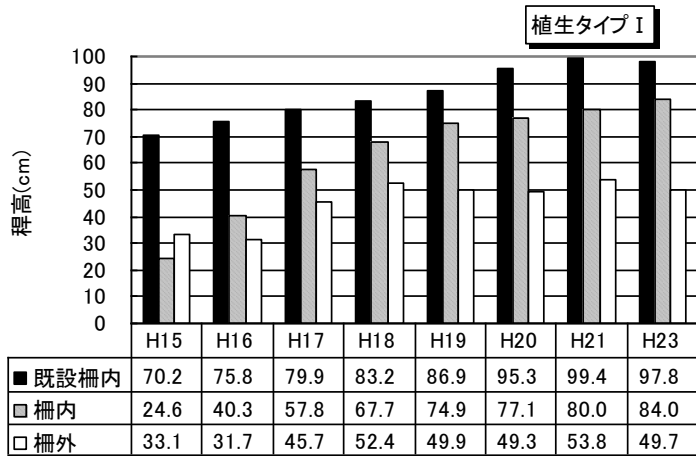


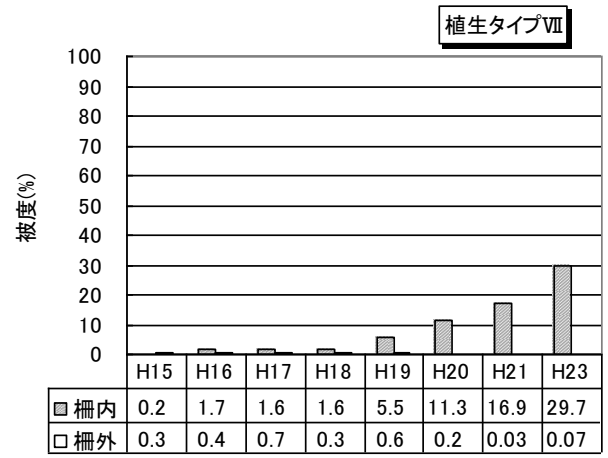
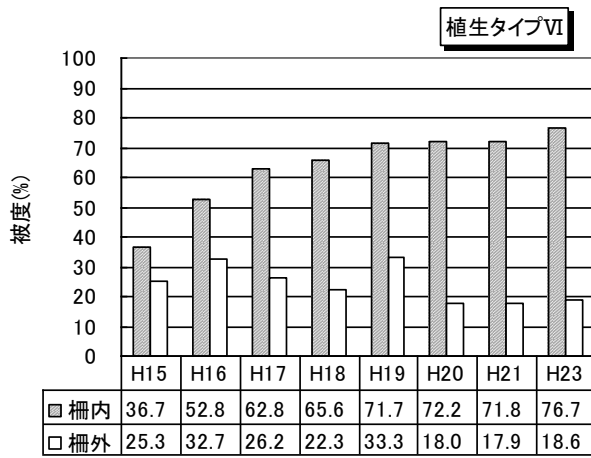
※林床植生調査区 4 m² × 9 プロットの平均で示した。

図 14-1(1) 植生保全対策によるミヤコザサ植被率の変化



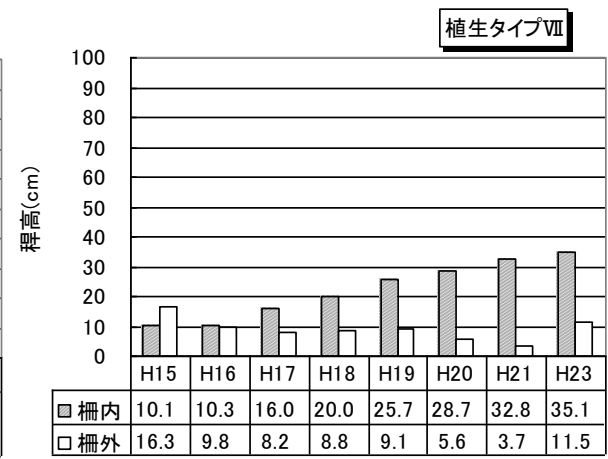
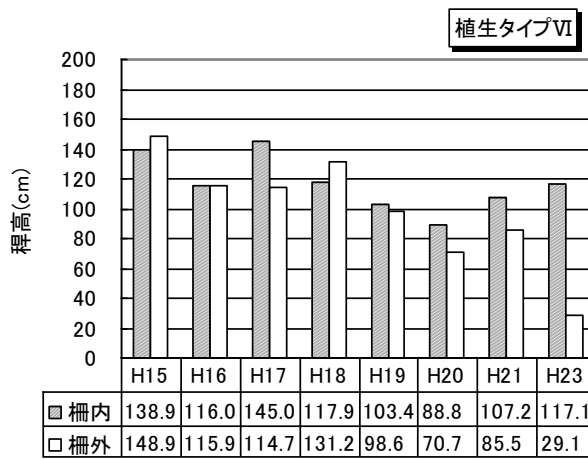
※林床植生調査区 4 m² × 9 プロットの平均で示した。

図 14-1 (2) 植生保全対策によるミヤコザサ桿高の変化



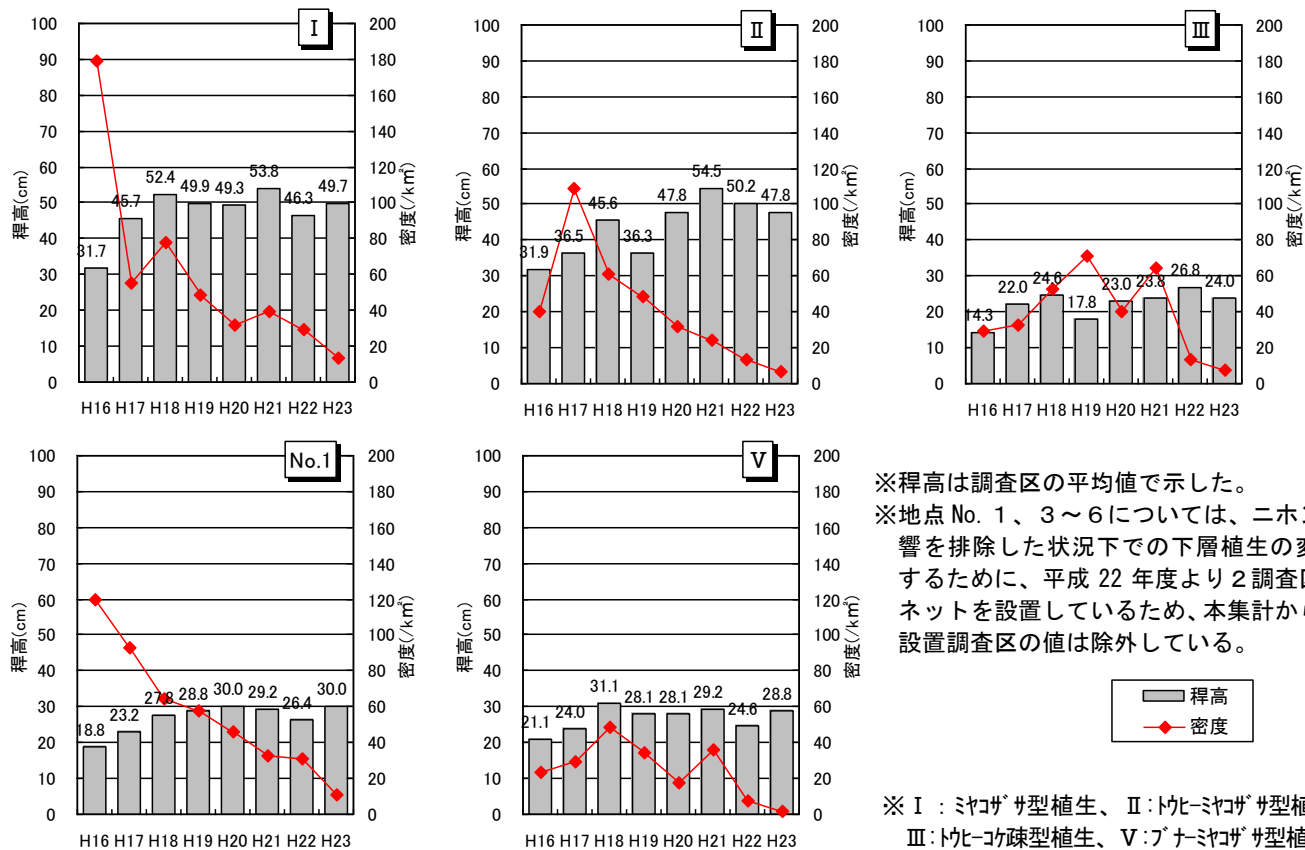
※林床植生調査区 4 m² × 9 プロットの平均で示した。

図 14-1 (3) 植生保全対策によるスズタケ被度の変化



※林床植生調査区 4 m² × 9 プロットの平均で示した。

図 14-1 (4) 植生保全対策によるスズタケ桿高の変化

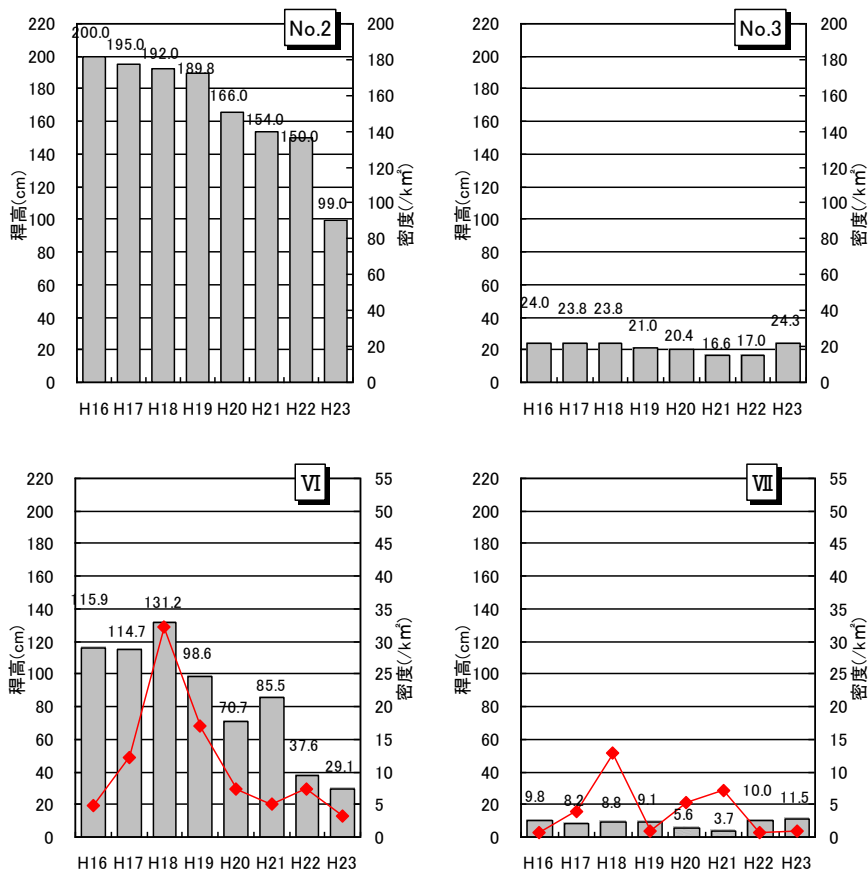


※稈高は調査区の平均値で示した。
 ※地点 No. 1、3～6については、ニホンジカの影響を排除した状況下での下層植生の変化を把握するために、平成 22 年度より 2 調査区においてネットを設置しているため、本集計からはネット設置調査区の値は除外している。



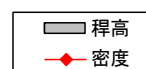
※ I : ミヤコザサ型植生、II : トヒ-ミヤコザサ型植生、
 III : トヒ-コクク型植生、V : ブナ-ミヤコザサ型植生

図 14-2 (1) ササ型植生における平成6～23 (2004～2011) 年度のミヤコザサの稈高とニホンジカ生息密の変化



※稈高は調査区の平均値で示した。
 ※地点 No. 1、3～6については、ニホンジカの影響を排除した状況下での下層植生の変化を把握するために、平成 22 年度より 2 調査区においてネットを設置しているため、本集計からはネット設置調査区の値は除外している。

※No. 2、No. 3ではニホンジカの生息密度調査を実施していない。



※VI:ブナス' 竹密型植生、VII:ブナス' 竹疎型植生

図 14-2 (2) ササ型植生における平成6～23 (2004～2011) 年度のスズタケの稈高とニホンジカ生息密度の変化

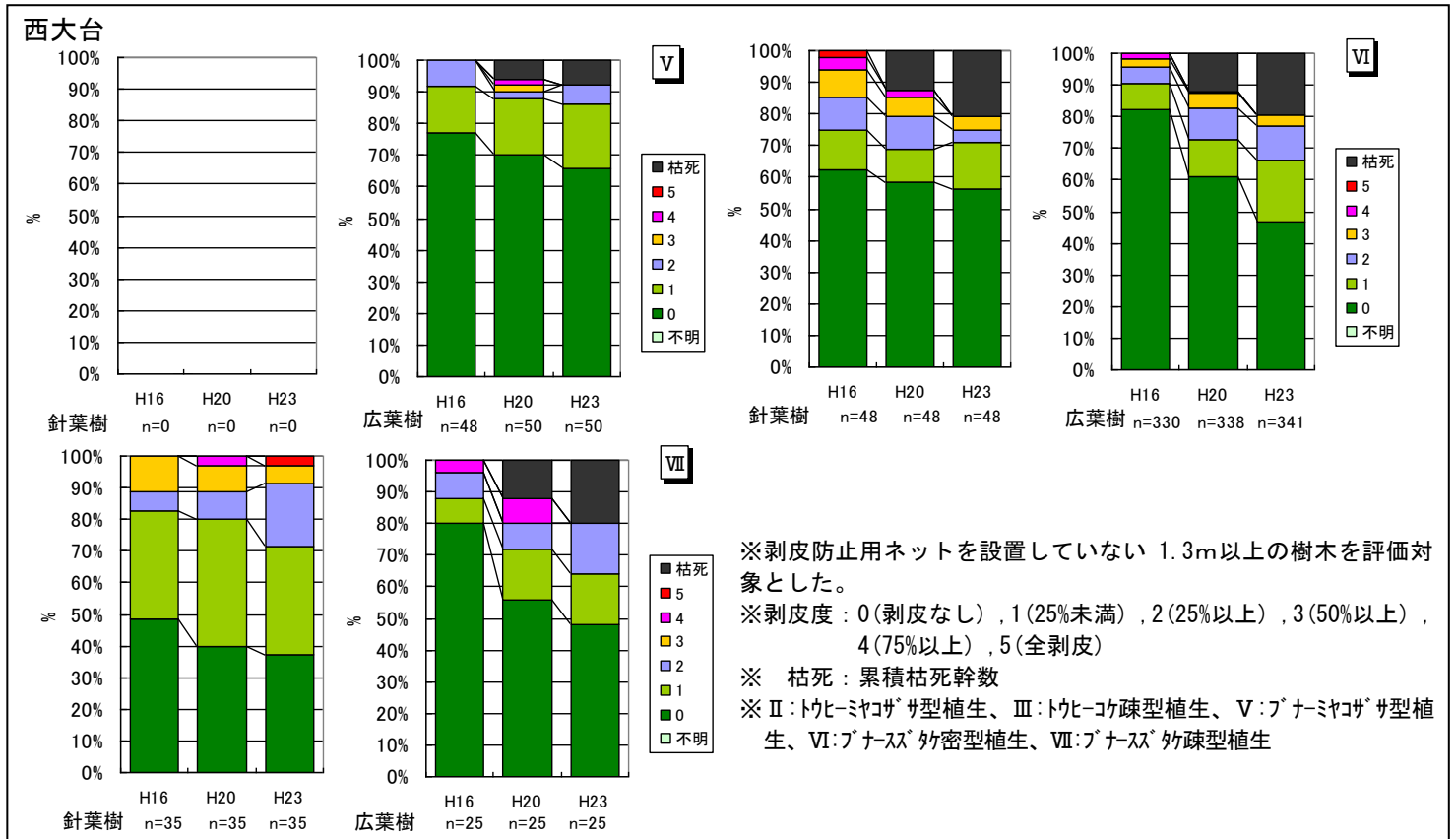
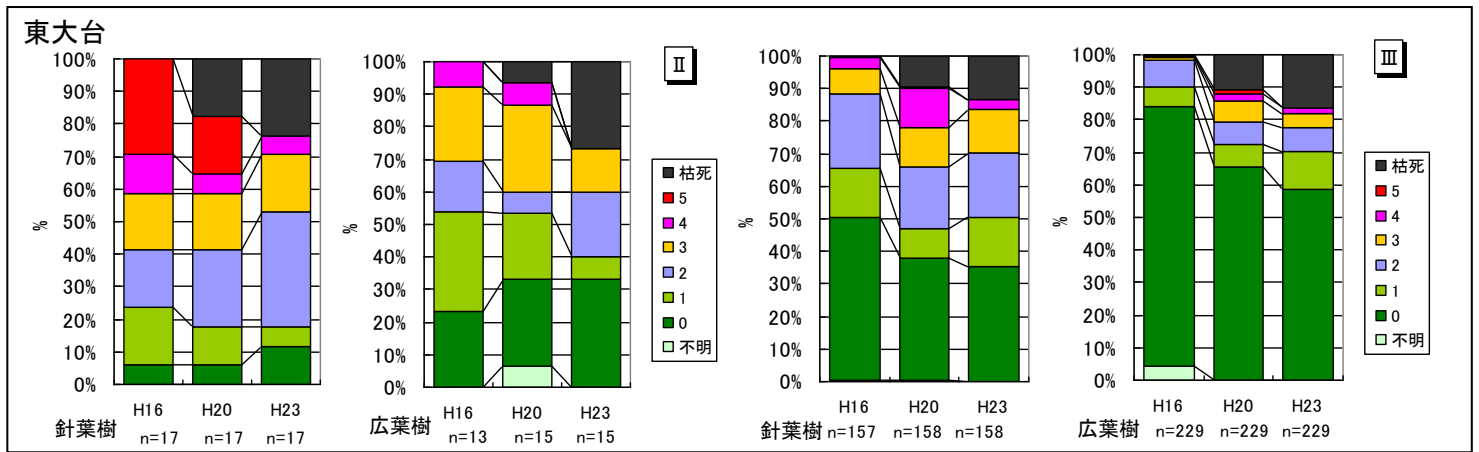


図14-3 生存幹の剥皮度別割合の推移

※自然再生推進計画に基づく植生タイプ別調査地点のうち、柵外対照区 (30m×30m) において実施した毎木調査結果によるもの。